

# 朝鮮民主主義人民共和国における漢字教育

1990年代を中心に

植 田 晃 次\*

## Chinese Character Education in the D.P.R. of Korea in the 1990s

UEDA Kozi\*

### Abstract

The D.P.R. of Korea abolished the use of Chinese characters in their orthography in 1949. After that, they have been using only Korean characters in their writing system. Chinese characters had not been taught in its educational system for a while. However Chinese character education started again in the 1950s.

Two leaders of the nation emphasize the necessity of reading the materials published in the Republic of Korea and cultural heritage of their ancestors. But true purpose is not to learn Chinese characters themselves but to acquire more Korean words.

In this paper, we deal with a textbook of “Hanmun ( Chinese characters )” and the articles published in the 1990s, and analyze the actual conditions of Chinese character education in the D.P.R.K.

It is considered that the whole curriculum functions as political and ideological education in the D.P.R.K. “Hanmun” can not be treated as an exception, too. But, the textbook and the materials show that the authors exert all possible efforts to make students learn Chinese characters in the limited curriculum, and teachers also do their best in daily classes. While the first purpose for them is to enrich Korean vocabulary of their students, they pay attention to various aspects of Chinese characters.

### ．先行研究と目的

#### 1．先行研究

日本では、朝鮮民主主義人民共和国（以下、「共和国」と略<sup>1)</sup>）の言語政策、とりわけ文字政策については、宋枝学（1956a, 1956b, 1960）・竹端瞭一（1969, 1970b, 1972, 1973）・タケバ リョウイチ（1970a, 1971）・朴鎔暉（1981, 1982）・未詳（1956）

などがある。

共和国では、チョン＝ヘチョン（1987）が、同国創建前後を中心に識字運動の観点から文字政策を扱っている。また、チェ＝チョンフ・パク＝チェス（1999）は第6章を「文字問題に関する理論」として、文字政策について論じている。この他にもいくつかの言語政策関連書が刊行されている。

韓国においては、1980年代後半以降、南

\* 大阪大学言語文化部助教授

北朝鮮の言語政策について扱った研究が少なくない。イ＝ユンピョ（1989）・チェ＝ヨンギ（2003）などがその一例である。

しかしながら、竹端瞭一（1973：27-28）が学校教育における「漢文」<sup>2)</sup>の時間数に触れたりしてはいるもの<sup>3)</sup>、日本や共和国での研究は、漢字廃止という側面に主たる関心があり、漢字を廃止しながらも漢字教育を行っていたということは見過ごされがちである。韓国での研究は、イ＝ユンピョ（1989）やチェ＝ヨンギ（2003）のように、漢字教育に触れているものもあるが<sup>4)</sup>、いささか年を経たものであったり、概略的であったりする。

そんななかで、注目に値する研究としてホ＝ドンチャン（1987）とハトリ＝レイコ（1991）が挙げられる。ホ＝ドンチャン（1987）では、共和国での漢字教育の歴史を概観しつつ、漢字教育の性質と概要などを、朝鮮大専校での教育経験をも参考にしつつまとめている。ハトリ＝レイコ（1991）では、『漢文』や関連の教科書、雑誌記事など、入手しうる史資料を用い、時期別<sup>5)</sup>の実態を可能な限り推測するとともに、当時までの漢字教育の目的・教授法などを明らかにしている。

## 2. 目的

共和国において、漢字は識字運動との関連で1949年に廃止され、表記の上からはその姿を消した。先述のように、共和国の言語政策を論ずる際、漢字廃止についてはしばしば着目されるが、その後、漢字教育が復活し、細々とではあるが続けられてきていることにはあまり関心が払われてきたとはいえない。

本稿では、とりわけ1990年代の共和国での漢字教育に関して、基本的にはハトリ＝レイコ（1991）と同様に、高等中学校<sup>6)</sup>3年用『漢文』教科書といくつかの関連出版物の記事等の分析などを通じて、その実態と問題点を明らかにする。

## ・共和国における漢字の扱い

### 1. 漢字の廃止と漢字教育の復活

北朝鮮では、共和国政権成立以前から、北朝鮮臨時人民委員会が識字運動<sup>7)</sup>に取り組み<sup>8)</sup>、その成果として、1949年3月に漢字を全廃したといわれる<sup>9)</sup>。これにあたっては、「過渡的な方法<sup>10)</sup>」がとられるとともに、「漢字に対する古い認識をなく」すための漸次的方法<sup>11)</sup>をとったという。

しかしながら、漢字教育はある時期に復活し、細々とではあるが、続けられてきた。

共和国での漢字教育の復活については、1950年代後半とするものと1968年とするものがある。たとえば、前者の立場のホ＝ドンチャンは「朝鮮民主主義人民共和国図書目録」に見られる漢文教科書の発行年に関する記述と、「教育学 師範大学用」に見られる課程案を、後者の立場の1人であるイ＝ユンピョは中学校用国漢文混用体教科書の発行をその根拠にしているという（ハトリ＝レイコ 1991：268<sup>12)</sup>）。

宋枝学（1960：1962増補版）所収の教科課程表を基に、漢文の配当時間をまとめると、表1のようになる。

これらの記述によれば、漢字教育の復活は1953年となる。先の記述と総合すれば、若干のずれはあるものの、少なくとも1950年代からすでに漢字教育は復活していたといえよう。しかし、それは「外国語教育の

表1 共和国における「漢文」の配当時間数の変遷

1945年11月21日	中等学校は1～4年で全て1時間	
1949年9月	初級中・高級学校で学科名に漢文なし	
1951年9月	初級中学校と高級中学校で学科名に漢文なし	
1953年8月	初級中学校は1～3年でそれぞれ2時間 ずつ（総時間数198）	高級中学校でも同様の配当と時間数 師範専門学校師範科でも同様の体系
1955年8月1日	初級中学校では、1年前後期、2・3 年前期に各1時間、2・3年後期に各2 時間（総時間数125）	高級中学校では1～3年で前後期各2 時間ずつ（総時間数198）
1956/57年		
1957/58年	初級中学校からは科目名が姿を消す	高級中学校でのみ1～3年で前後期各2 時間ずつ（総時間数204）
1959/60年		
1960/61年		より高学年で週1～2時間開設

（出所）宋枝学（1960：1963増補版：249-266）に基づき本論文の筆者が作成。

形式で一定の範囲で実施する<sup>13)</sup>、「特殊に漢字を利用する<sup>14)</sup>」というものであった。

## 2. 金日成主席の教示

前節で見たように、1950年代から漢字教育が復活しているにも拘らず、1960年代後半から復活したという見解が出るのにはそれなりの理由がある。先行研究の多くも指摘しているように、金日成主席が1964年と1966年に言語学者たちで行った談話に基づく教示で、漢字教育に関して述べているからである。

1964年1月3日の「朝鮮語を発展させるためのいくつかの問題」では、「〔……〕漢字問題について述べましょう。漢字を続けて使わなければなりませんか、使うべきではありませんか。漢字を使う必要はありません。」と述べた後、漢字問題は統一問題と関連されて考えなければならないとしている。すなわち、廃止すれば、南朝鮮では漢字を使っている条件下で、南朝鮮で出ている出版物が読めなくなるので、一定期間、漢字を学び、使わなければならないが、出版物では使わないというのである（キム＝イルソン 1982a：23-24）。

また、1966年5月14日の「朝鮮語の民族的特徴を正しく生かしていくことについて」では、「われわれは漢字語をできるだけ使わないようにしながらも、学生たちに必要な漢字は教えてやり、それを書く方法も教えなければなりません。」と述べている。ここでも、先の教示同様、対南政策との関連から、漢字学習の必要性を説いているが、他方、昔の文献が読めるように漢字を学ばなければならないとも述べている<sup>15)</sup>。しかし、教科書には如何なる形によっても漢字は入れてはならないとしている（キム＝イルソン 1982b：348-349）のは1964年の教示と同様である。

しかしながら、ハトリ＝レイコ（1991：272）では、「〔……〕漢字教育の真の目標は、南韓との関係にあるのではなく、まさにこのような語彙力強化にあるといえよう。」としていることをここでは確認しておこう。

漢字教育の必要性を説きながらも、部分的な教育にとどめなければならないといっているわけであるが、これについて、社会科学院チュチェ思想研究所（1975：193）は次のような指摘をしている。

漢字使用を廃止するといいいながらも、部分的な出版物で漢字使用を許容するだとか、国漢文を合わせて使い、カッコやその他の形式で漢字を挟み込む書写生活をするなら、漢字使用廃止をはやく実現できないばかりか、二重的な文字生活をそのまま続け、漢字に対する未練まで生ずるようになりうる。

ここでは、「未練」というどちらかという感情的な語彙で漢字への執着が一部に残っていることを示唆している点が注目される。

しかしながら、同時に「〔……〕漢字を知らない世代たち〔……〕」(社会科学院チュチェ思想研究所 1975 : 194)ともいっており、漢字に対する認識への世代差が垣間見える。たしかに、上のような教示を行った金日成主席自身、1992年に金正日国防委員長の生誕50周年にあたって発表した詩「光明星讃歌」を漢文と朝鮮語訳のふたつの形態で書いており、漢文のほうがオリジナルのようである。また、金日成主席は、文献の原稿の執筆などにあたって、漢字・朝鮮文字混じりで書写生活を送っていた場合もあることが伺える。たとえば、ホ＝ドンチャン(1987 : 103)は、1961年の第4次党大会で行った、金日成主席の報告草稿の写真版に相当の漢字が見られ、国漢文混用体になっていることを指摘している。さらに年月を経た、キム＝イルソン(1996 : 巻頭写真)の「偉大な領袖金日成同志が親しく作成された回顧録執筆要綱の一部」でも漢字がみられるが、「cipphilyokang」(執筆要綱)を「cipphil要kang」と書くというものなど、国漢文混用体とは言い難いものも含めて、漢字・朝鮮文字混じりの表記が散見される。

### 3 . 金正日国防委員長の指摘

共和国では、金日成主席の教示が、金正日国防委員長の指摘に形を変えてアレンジされ、改めて教化されることがある。

次の文章は、次章で検討する教科書『漢文 高等中学校 3』の第13課の本文全体である。

偉大な領導者金正日元帥は、1961年7月、金日成綜合大学の学生たちと席を同じくなさり、漢文学習をしっかり行うよう、諭してくださった。

当時、一部の大学生の中では、漢文は学ぶのにもたいへんで、大して使い道もないといいいながら、漢文の勉強をよくせずにいる傾向が現れていた。

敬愛する金正日元帥は、その日、学生たちに、わが国の昔の本はほとんど漢字で書かれているから、漢文の知識がなければ、悠久たるわが民族の歴史を研究することができないのみならず、貴重な文化的財産も適時に発掘できないとおっしゃりながら、現在南朝鮮でと海外で発刊されている新聞や雑誌をはじめとする出版物で漢字をたくさん使っているとおっしゃった。それから続けて、漢文学習に対する正しい観点を持ってここに注力して、必要な漢文の知識を必ず身につけなければならないと強調なされた。

敬愛する金正日元帥の貴重なお言葉を胸に刻んだ学生たちは、漢文の学習をよく行い、祖国統一偉業と民族文化遺産継承、近隣諸国との科学・文化・経済交流に積極的に尽くさんと固く決意した。

1961年7月に金日成綜合大学の学生たちと行った談話に基づくとされるこの指摘の全体は、管見の限りではいまのところ確認できていない。しかし、ここでの教化内容は、先に検討した金日成主席の1964年・1966年の教示と対照すれば、それらの教示のエッセンスを焼き直したものであることが容易に分かる。

教示や指摘は、実際に行われたとされる日付からかなりの年月が経ってから公表されることが少なくなく、上の指摘が実際にはいつ公表されたのかは不明であるが、後述の如く1990年代後半に刊行されたと見られるこの教科書に収録されていることから、先の時代からの漢字教育観が1990年代にも継承されていると判断できる。またここでは、従来の「祖国統一偉業と民族文化遺産継承」の他、「近隣諸国との科学・文化・経済交流」という目的が付け加えられている。しかし、共和国の一般の人々が、韓国の出版物や昔の文献に触れる機会はほとんどないと見られ、かなり理念的な意義付けであることは否めない。

## ・ 高等学校教科書『漢文 3』から見た漢字教育

### 1. 書誌

縦23.5×横16cm、67頁、奥付はなく、表紙に「漢文教科書 高等学校 3」と青インクで手書されている。紙質は相当悪い。また、印刷の状態も悪く、文字がかすれたり、つぶれたりして、判読できない部分もある。目次、第1課～第35課、付録「漢字と漢字語」から成るが、第3課にあたる5～6頁を欠いている。本文の内容に「〔……〕代を継いで続く『苦難の行軍』の継承者」

(第6課)という言いまわしが出てくること、2000年に行われた分かち書きの改定が反映されていないこと、また、入手時期(2000年12月)から見て、1990年代後半の刊行と思われる。

大韓民国統一部ホームページ(<http://unibook.unikorea.go.kr> <2003年9月24日接続>)の北韓資料センター資料室北韓教科書目録によれば、同センター資料室所蔵の教科書として、『漢文』(高等学校用) 1・2・3・5・6(いずれも1998年刊)が挙げられており、この3と同じもの、あるいはその刷次違いと考えられる。

### 2. 目次

目次は次の通りである。

第1課 主体思想塔 / 第2課 母なる党 / 第3課 独立万歳のこだま / 第4課 わが党の輝かしい革命伝統を継承発展させよう / 第5課 哨所にいらっしゃる兄上に / 第6課 「苦難の行軍」精神で / 第7課 今日の黄鉄<sup>(6)</sup> / 第8課 復習1 / 第9課 漢字の部分的音と総体的音 / 第10課 新しい世代たちは革命の継承者であり、未来の主人公 / 第11課 革命の聖山白頭山 / 第12課 偉大な將軍の名言「忠孝一心は最強の武器である」 / 第13課 漢文学習をたゆまず行うようお導きになり / 第14課 三角形と角 / 第15課 「つち」と「土壌」 / 第16課 正字と略字 / 第17課 復習2 / 第18課 漢字の三要素 / 第19課 民族最大の記念日 / 第20課 大城山 / 第21課 旺載山に行かれる道で / 第22課 同義字と反義字 / 第23課 偉大な模範 / 第24課 ちびっこ宣伝隊 / 第25課 貴重な地下資源 / 第26課 復習3 / 第27課 漢字の意味と合成 / 第28課 撫松県ミョリョン戦闘 / 第29課 四字句 / 第30課 革命的入口

一ガン文献 / 第31課 肝臓の構造と機能 / 第32課 革命逸話「自らお守りになった秩序」 / 第33課 地陽溪での軍民聯歡大会 / 第34課 統一の叫び / 第35課 復習4 / 付録「漢字と漢字語」

一見してわかるように、政治・思想教育、自然科学分野を題材とした本文の課の他、前章で本文を示した第13課のように、金正日国防委員長の指摘を引きつつ、漢字学習の意義を力説している課（第13課）や、漢字に関する知識を題材とした本文の課（第9・15・16・18・22・27・29課）が少なくないことから、漢字学習を通して、漢字に関する基礎知識をも与えることを目的にしていることがわかる。これらの基礎知識は次節に述べるように、多様な練習問題によってもさらに補強される。

### 3. 各課の構成

#### (1) 本文

標題の下に、0.5～1頁程度の本文が正字の漢字・朝鮮文字交じりで示される<sup>17)</sup>。ここでは全ての漢字語が漢字で示されるわけではなく、下の例のように、漢字語が朝鮮文字で示されている場合もある。

偉大han 首領 金日成大元帥nimuy 永生不滅uy 革命思想kwa 革命epcekul nophi chingsonghamye 万代ey kili 伝hal 主体思想塔un 首都uy 中心部in 風致 aluamtawun 大同江 kisukey 巨大hi sosa chanlanhan pichulon nwuliey ppulikoissta.

(第1課の本文冒頭。下線は本論文の筆者による。)

上の文で、下線部のepcek [業績] chingsong [称頌] chanlan [燦爛] はすべて朝鮮文字で表記されてはいるが、漢字語である。

#### (2) 新しい漢字

本文の次には、復習の課を除き、「新しい漢字」が4～7字ずつ示される。ここでは漢字とその「訓」と音が、「蔽 emhal em」（「蔽 蔽しいゲン」）のように示される。ただし、第9課では(1)・(2)として、5字ずつ、第18課では同様に5字+6字の11字が挙げられている。巻末の付録に挙げられている「漢字と漢字語」には下に示した173字が親文字として挙げられている（配列は付録所収順<sup>18)</sup>）。しかし、「新しい漢字」で挙げられているもののうち、武（第12課）・降・伏（ともに第27課）の3字は漏れている。また、街・激・観・鍾・号・幼の6字は、欠いている第3課の「新しい漢字」ではないかと見られる<sup>19)</sup>。

仮	刊	簡	街	肝	鋼	激	堅	檢	境
慶	経	傾	軽	攻	拘	構	掘	禁	窮
矜	汽	機	企	旗	緊	開	繼	械	階
観	鉦	胆	達	倒	盜	独	屯	帶	朗
慮	練	烈	留	陵	隣	雷	忘	忙	貌
茂	邁	猛	邦	繁	犯	伐	富	附	憤
配	碑	酸	詳	状	善	仙	盛	城	掃
消	続	需	樹	寿	垂	承	施	息	失
慈	装	張	著	積	績	蹟	接	点	程
亭	頂	停	庭	調	尊	鍾	駐	池	陣
質	疾	再	財	罪	差	搾	窓	処	賤
鉄	哲	尖	銃	祝	築	層	打	彈	歎
塔	討	通	鬪	宅	退	判	便	砲	疲
被	閉	寒	割	享	嚮	号	効	脅	興
恵	回	画	拡	況	岸	圧	野	壤	憶

敵 如 逆 鉛 沿 泳 迎 屋 溶 友  
幼 恩 応 易 認 仁 液 鋭 宜 威  
為 援 源

### (3) 漢字語

次に、「漢字語」として、「新しい漢字」を含む語彙が本文から3～6つ示される<sup>20)</sup>。たとえば、第14課では、「新しい漢字」として点・垂・割・頂・応・鋭の6字が、「漢字語」として、点・頂角・垂直・対応・分割・鋭角の6語が示されている。

### (4) 練習

その後、「練習」がある。その設問の形式は様々で、問題としている内容も多岐に渡っている。基本として、音・意味・部首・画数・字形などを問うのだが、これらの複合問題や作文などの応用問題のほか、漢字に関する専門知識を問うものもあり、かなりのバラエティを持っている。また、語彙に関する練習も多様で、の2で確認したように、先行研究が指摘している語彙教育としての性質が現れている。教科書での学習事項を基にしているとはいえ、日常、漢字に接する機会のほとんどない生徒たちにはかなり高度ではないかと思われる設問がなされている。

#### 1) 音を問うもの<sup>21)</sup>

(第9課(2)4) 次の漢字語を読みなさい。<sup>22)</sup> : 自由泳, 砲車, 明朗, 面積 / (第2課1) 次の文章を読みなさい。 : 抗日遊撃隊員tuluy 百折不屈uy 革命精神ul ttala-pay-wuca. {……}

#### 2) 意味を問うもの

(第4課2) 次の漢字と漢字語を対比し、その用法における差異を述べなさい。 : 綱 剛 銀 銅 鋼 鉄 針 戦争 戦

闘, 鉄道 鉄路, 公認 共認 / (第7課2) 次の漢字の意味合いの違いを述べなさい。 : 在, 有, 存

#### 3) 部首を問うもの

(第9課(2)2) 次の漢字において、部首を探して書きなさい。 : 泳, 砲, 朗, 仙, 積 / (第6課2) 次の部首が入った漢字を探して書きなさい。 : 金, 火, 宀, 貝, 食, 木 / (第1課2) 次の部首と結合された漢字を各々10字ずつ探して書きなさい。 : 土, 糸, 手, 口 / (第35課5) 一般的によく使われる漢字の部首を20探して書きなさい。

#### 4) 画数を問うもの

(第32課2) 次の漢字を何回か書き、画数を計算しなさい。 : 疲, 禁, 再, 便, 拘 / (第34課1) 次の漢字を基礎漢字に分け、画数を計算しなさい。 : 陣, 処, 犯, 罪, 効, 判

#### 5) 字形を問うもの

(第25課1) 次の漢字を書きなさい。 : soy-tol kwang, yen yen, kim ki, thul ki, kikyey kyey, ssahul chwuk / (第12課1) 次の単語を漢字で書きなさい。 : wilyek, wimyeng, wisin, siwi, loywu, ciloy, swu [lyek]<sup>23)</sup>, mulyek, musa, {……} / (第13課1) 次の文で下線部を漢字で書きなさい。 : Lotongsinmun thukkanho palkan, lyen-sokcekin kongkyek, alumtawun kokco, linkunhakkyowauy kyengki, kwuhomunhenuy palkwul / (第12課3) 次の音を持った漢字を5つ以上探して書きなさい。 : [mu], cang, <sup>24)</sup> li, swu, sang

この他、Payktwusan・Kumkangsan・Myohyangsanなどの山の名(第20課3) kwuke・hanmun・oykwukeなどの学科目名(第23課3) kak・cikkak・cengkakなどの数学用語(第14課3) など、生徒により身

近なものを漢字で書かせ、興味を持たせようとする意図が感じられる。

6) 漢字のしくみを問うもの

(第9課(1)3) 次の漢字が音を担う形声漢字を探して書きなさい。: 干, 亡, 未, 卑, 長 / (第26課2) 次の漢字の部分的音と総体的音を述べなさい。: 鉦, 機, 汽, 境, 哲, 著, 邁, 迎, 接, 停, 恩, 盛

7) 語彙を問うもの

(第12課2) 次の漢字で単語を作りなさい。: 装, 革, 想, 理 / (第1課3) 次の漢字で単語を作り、後ろにある漢字を共通の文字として単語を5つ作りなさい。: 廠, 援, 勝, 建 / (第34課2) 次の内に適切な漢字を書き入れなさい。: 陣陣, 罪罪, 罪 [.....] / (第4課3) 次のの中に、適切な漢字を書き入れなさい。: ○堅 han hwacem, 堅 han salam, 堅 han thwucayng [.....] / (第25課2) 次の漢字を対比し、各々漢字語を作りなさい。: ○金, 銅, 銀, 鉄, 鉛, 鋼, 鉦 / (第16課2) 次の漢字をつないで、漢字語を作りなさい。: ○独 単, 身, 房, 特, 孤 [.....] / (第18課(1)1) 次の漢字語の意味を述べなさい。: 検事, 開校式, 電池, 達成, 義憤

また、5)で挙げた学科目名や数学用語の他、金属工業部門の用語(第7課3) 五大名山(第11課4) 人体の五臓(第31課4) など、本文と関連ある専門語彙の漢字を書かせるものもある。

8) 複合問題

(第2課2) 次の2つの音を持った漢字の意味を言い、単語を作りなさい。: 状, 更, 楽, 悪, 暴 / (第4課1) 次の文を読み、それぞれの漢字の意味を述べなさい。:

wulinun 事業 kwa 生活 eyse 革命的原則 ul 堅持 hayeya hanta [.....] / (第14課2) 次の文を読み、内に適切な漢字を書き入れなさい。: wensswuuy 火 lul<sup>25)</sup> cispusimye aphulo nakassta. ○漢文 sihem 数 nun 五 iyesta [.....] / (第22課1) 次の漢字を読み、「いえ」という意味を持った漢字を探して書きなさい。: 人家, 舍宅, 人民文化宮殿, 病院, 農戸, 教室, 最勝台, 学生少年宮殿 / (第22課3) 次の内に適切な反義字を書き、漢字語の意味を述べなさい。: 強, 軽, 大, 出, 害, 答 [.....] / (第9課(1)1) 次の漢字語を読み、それぞれの漢字の意味をいいなさい。: 海岸, 多忙, 忘却, 碑石, 主張 / (第5課3) 次の漢字と音が同じ文字を捜して書きなさい。: 友, 企, 失, 戦, 所, 手 / (第8課2) 次の意味の漢字を2字以上書きなさい。: sayngkakhata, kathta, ssawuta, alta, [.....]

このように、複数音を持つ漢字、同義異字、同音異字、反義字などにも目配りがされている。

9) 作文

(第1課4) 次の漢字を入れて、国漢文から成った短文を作りなさい。: 尊厳, 無窮, 繁荣 / (第5課4) 人民軍のおじさんたちに送る手紙を国漢文で書きなさい。 / (第13課3) 次の漢字語で国漢文から成った短文を作りなさい。: 傾向, 強調, 継続, 発掘 / (第33課4) 「日記」を国漢文で書きなさい。 / (第35課6) 祖国統一主題で、国漢文の文を作りなさい。

4. 特徴

共和国の教育は政治・思想教育の一環と



しての側面を持っており、ハトリ=レイコ(1991:285) 他が指摘しているように、漢字教育も例外ではない。そんななかで、思想教育的な側面が強調されがちであるが、本文を通して漢字に関する知識を教育しようとする点や、漢字のさまざまな側面に配慮された練習を見るに、政治・思想教育としての側面は濃厚な部分はあるが、漢字教育の本質の問題をさておいたものであるとはいえないだろう。

新出の漢字については、新しい漢字、漢字語、本文、練習問題で繰り返し様々な面からの設問により、定着が図られる。練習問題も前節で見たように、多様な形式で、多面的に同一漢字の練習が意図されている。

このような構成からは、限られた範囲で、執筆者が生徒になんとか漢字を定着させようとする労苦が感じられさえする。また、漢字に対する知識事項の記述についても、同様の配慮が感じられる。

ここでとりわけ、注目されることは、正字と略字について1課を割いて扱っていることである。通常、朝鮮語では正字が正式のものとしてされている。しかし、第16課では本文と新しい漢字の他、練習問題<sup>26)</sup>でも両者の違いに注意を喚起している。第16課本文では、「[.....] われわれはまず、わが国で、そして、南朝鮮と日本であまねく使っている略字から知らなければならず、一定の漢字知識を積んだ後には、中国で使われている簡略化された漢字を知らなければならない。」と述べられているが、従来は言及されなかった点である。

## ・出版物から見た漢字教育の実状

### 1. 工具書類から見た漢字教育

古くは金日成主席の1964年教示に先立って、朝鮮民主主義人民共和国科学院古典研究所が編纂した、17345字を親字とする『新しい玉篇』が1963年9月に科学院出版社から刊行されている。学友書房で1983年8月に翻刻されていることから、この間、この程度の規模の玉篇類は編纂されていない可能性もある。

1991年4月には、社会科学院言語学研究所が編纂した、『漢字語辞典』が教育図書出版社と中国の黒龍江朝鮮民族出版社の共同出版で刊行されている(朝鮮側の序は1989年4月15日付)。

また、近年のもので、学生用のものとして、ユン=チュイル・チョ=ピョンソク・パク=チョンウォン(2000)『玉篇(学生用)』教育図書出版社が確認される<sup>27)</sup>。これは3000余字を収録しており、ホ=ドンチャン(1987:104)などで、大学までで学ぶべき漢字数とされている文字数と一致する。巻末には、音・部首・画数別の索引の他、日本語漢字が収録されている。

この他、朝鮮出版物輸出入社(2001:269)によれば、この時期、少なくとも、未詳(1991)『大衆玉篇 2版』科学百科事典総合出版社、リム=ヨンファル・アン=テヨン(1993)『漢字語彙集』外国文図書出版社、未詳(1995)『二千字文』教育図書出版社といった、漢字学習関連書籍が刊行されていることがわかる<sup>28)</sup>。

こうしてみると、1990年代に少なからぬ工具書類が編纂・刊行されたことが分かる。上のユン=チュイル・チョ=ピョンソク・

パク＝チョンウォン（2000）の前書きには、「漢文の勉強をしようと思えば、漢文を学ぶのに必要な様々な参考書が多くなければなりません。漢字と漢字語彙に習熟するための玉篇や辞典も作り、漢文成句集、名文選のようなものも十分作らなければなりません。」という金正日国防委員長の指摘に基づき編纂されたとある。このように、1990年代にも、ある面では漢字教育への注力が行われている。

## 2. 雑誌記事等から見た漢字教育

で見た教示と指摘では、漢字教育の意義として、韓国の出版物が読めるようにということ、あるいは、古い文献が読めるようにということが挙げられていた。このような理由付けは繰り返し教化されている。

しかし、ハトリ＝レイコ（1991：272, 277, 283）が重ねて指摘しているように、共和国での漢字教育は、対南戦略的なものでもなく、また、過去の文化遺産の継承というものというよりは、語彙力の強化に少なからぬ目的があるものであることが、前章で見た『漢文』教科書での語彙に関する練習問題からもわかる。

ここでは、『文化語学習』（1998～2000年は、朝鮮語学・文学専門誌『朝鮮語文』と合併）誌などの、雑誌所収の漢字教育関連記事などを通して、とりわけ、ハトリ＝レイコ（1991）で扱われた以降、すなわち1990年代の共和国の漢字教育の実情と目的を明らかにする。

### （1）漢字教育の着眼点と対策

#### 1）語彙の豊富化

すでに先行研究も指摘しているように、漢字教育の目的のひとつは朝鮮語の語彙教

育にあるといわれている。では、実際にどのような側面で漢字教育が利用されているのだろうか。高等中学校の教員と見られるリ＝ドクソン（1991：34）は漢文教育の目的を、漢字の読み書きと漢字の意味を正確に認識させることとし、後者について、「朝鮮語語彙教育の見地からも重要な意義を持つ」と主張している。そして、その漢字の「訓」にあたる意味を表すことばはほとんど固有朝鮮語であるとし<sup>29)</sup>、漢字の意味を教えることを通して、日常は広く使われない、「この語彙の意味の正確な認識過程が語彙を豊富にし、固有朝鮮語を再び生かして使うのに大きな意義がある。」と述べている<sup>30)</sup>。

すなわち、漢字の学習を通して、漢字語のみならず、固有語の知識をも増やそうとしていることが明らかにされている。

リ＝ドクソンの主張は、キム＝ソンシル（2001：34）の「〔……〕漢字を教えながら、朝鮮語の語彙を教えるのに注力するなら、多くの朝鮮語の単語を教えることができる。」との指摘とも符合する。具体的方法としては、キム＝ソンシル（2001：34）では、時間当たり5～6字の漢字を教えながら、普通50個～80個、多いときには100個までの単語を教えるようになった。」としている。

#### 2）意味の不正確な把握

漢字の意味を正しく理解していないことによる誤用については、パク＝チョンファ（1995：37）で指摘され、漢文教員の作文指導中にあつた「単語の意味を正確に知らずに適当に使っている現象」の事例として、次の文を挙げている。（下線は本論文の筆者による。）

Chelnamun Yengswuuy makyeonhan

chinkwuita. Kutulun haksayngttayputhe enceyna ttak puthetanye ssangtwungilako pullewassciman haksupeyse kyengcayngsimi imanceman aniyessta. Onulnaleyto Chel-namiwa Yengswunun cenkwamokey centhonthaki wihaye phithanun lolyekul hakoissta. (訳：チョルナミとヨンスは漠然とした友達だ。彼らは学生のころから、いつもぴったりくっついて行動し、双子と呼ばれてきたが、学習において競争心がちょっとやそつではなかった。今日でも、チョルナミとヨンスは全科目に全通するために、血のにじむような労力をしている。)

下線部が誤用で、makyen [ 漠然 ] makyek [ 莫逆 ] centhonthata [ 全通 ] cengthonghata [ 精通 ] lolyek [ 労力 ] nolyek [ 努力 ] のように本来使われるべきで、漢字の意味を正しく認識していないことによるとしている。

キム = ソンシル (2001 : 34) もまた、「[.....] 漢文の授業を通して、すでに単語は知っているが、その意味をはっきり分かって理解できていない単語の正しい意味を理解させるのに、力を入れている。」としている<sup>31)</sup>。

### 3) 綴字法

リ = ドクソン (1991 : 35) はまた、綴字の誤りについて述べ、moyok [ 侮辱 ] - mokyok [ 沐浴 ]、wiep [ 偉業 ] - wihyep [ 威脅 ]、kwunmu [ 軍務 ] - kunmu [ 勤務 ]、kwankay [ 灌溉 ] - kwankyey [ 関係 ]、senke [ 選挙 ] - senko [ 宣告 ]、calyo [ 資料 ] - caylyo [ 材料 ]、chayong [ 借用 ] - chayyong [ 採用 ] などを誤りやすいものの例としている。これらは、漢字の解釈、対

比、短文作りなどを通じて教育するという。また、このような、発音などが似た語彙の誤用のほか、yekhal [ 役割 ] - yekhwai、sayelsik [ 査閲式 ] - salyelsik、celyak [ 節約 ] - cellyakなどのように、口語発音や綴字法上の問題などが原因と見られる誤りについても指摘されている。上の例を見てまずわかることは、必ずしも漢字の知識の欠如や不足に起因すると思われるものばかりではないということである。

また、漢字語の綴字法指導は国語文学の教授でも行えるが、漢字語であるという条件において、漢文教授の過程で漢字解釈法として指導すればより確固として理解させられると述べ、「漢文教授過程を通して朝鮮語を教育することは漢文教員にとって決して副業ではない。」とまとめている。文字教育とともに、語彙教育にも重点が置かれていることが確認できる。

パク = チョンファ (1995 : 37) ではまた、「漢字を深く、正確にじょうずに教える問題が朝鮮語を正しく使う気風を打ちたてていくのにどれほど重要なかを深く省み、漢文教授を通して朝鮮語の知識を正しく教えるのに絶大な力を入れるようになった。」としている。

しかし、これらからは、むしろ漢字教育の実際の位置付けが垣間見えもする。

### 4) 字形

このほかに、字形についての教育について、キム = グムサン (1994) が報告している。ここでは漢字の書き方教育の目的として、漢字の点と画を正確に書きながらも構造的特性に合うように、文字をバランスよく、見た目によく書く方法を教えるということ挙げ、それによって、漢字の意味と

形を正確に理解し、長い間、記憶させ、習った漢字を強固にする重要な方途のひとつとなつてきている。このことから、漢字の学習の結果がなかなか定着していないことが垣間見える。ここでは、問題点として、点と画をうまく書くこと（代と化を誤る。）書き順（戈で点を先に書いてから、はねる画を書く人がいる。誤ると、画を書き忘れたり、バランスが崩れたり、速く書けなかったりする。）といった問題点を挙げている。

#### 5) 検字法

先に挙げた玉篇類を見ても、検字法は音・部首・画数によっている。しかし、リム＝ニヨンギル・リム＝ニヨンファ（1995）では、漢字、さらには漢字語を四角号碼のように数値化する方法を提案している。この方法の普遍性は措くとしても、このような開発を行おうとしている教員が存在することからは、漢字教育の困難さとそれを克服しようとする教員たちの労苦が感じられる。

#### (2) 小結

上のような報告を見れば、漢字教育の主目的がやはり語彙教育にあり、それは漢字教育の形を借りて語彙力を増やすためのものであるということが確認できる。また、綴字法の誤りについても漢字教育を通じて行おうとしていることがわかったが、さまざまな要因による誤りを一様に漢字についての知識の欠如・不足に求めるようなものになっている。

また、字形についての教育も、身近に漢字自体がほとんど存在せず、問題がある中で一定の関心は払われていることがわかる。

この他、もっとも問題となることは、やはり、漢字に対する関心の無さであること

が伺える<sup>32)</sup>。

「2つの新しい教授方法登録証を受け、数多くの教具を創案制作し、教授・教育に利用した」中学校教員を紹介した記事に掲載された写真で、教員の後ろの壁に、掛図のようなものが写っており、このようなものも利用されていることが伺える<sup>33)</sup>。

また、パク＝スニ（2003）では、「訓」を与えるときに機械的ではなく、工夫して与えている様子が示されており、このような教員たちの苦心が偲ばれる。

少し時代は溯るが、社会科学院チュチュエ思想研究所（1975：198）では、「〔……〕漢字教育の成果は、ひたすら偉大な領袖の創造的理論の正当性がもたらした輝かしい結実である。」と述べている。しかしながら、断片的な実践報告の中や、教科書の行間からは漢字教育に取り組む教員の姿があたかも浮かび上がってくるようである。

#### ・まとめ

本稿では、朝鮮民主主義人民共和国での漢字教育について概観した後、『漢文 高等学校 3』の内容を詳細に見ることにより、漢字教育が政治・思想的な内容も伴いながらも、多種多様な角度から行われるべく組み立てられており、それ自体の本質的特徴を失っていないことを明らかにした。

次に、出版物に現れた漢字教育の実践例などを検討することにより、1980年代まで同様に、漢字教育の目的は、対南政策的なものとして古い文献へのアクセスという2点が強調されているが、実態にマッチしておらず、実際は朝鮮語の語彙教育にその主目的があるということを確認した。ここでは、新たに、漢字語のみならず、固有語の語彙力強

化についても図られていること、正字の他に略字についても教育されていることを明らかにした。また、漢字に関する知識の不足による問題点とされるものが、必ずしも漢字の知識のみによるものではないことにも触れた。

さらに、漢字廃止の陰に隠れがちになりながら、語彙整理などの言語政策上の試行錯誤を経つつも、漢字・漢字語とのせめぎあいのなかで、漢字教育が細々とではあるが、教員の様々な工夫を伴って、1990年代に至っても行われていることを示した。

実地調査などが困難な現在では、断片的な情報から、実状を推測せざるを得ず、隔靴搔痒の感がある。ハングル専用と漢字併用の間で揺れを経験した、韓国での漢字の定着度や、漢字併用復活の動きも見られる中国の朝鮮語界なども視野に入れつつ、共和国での漢字のありように関心が向かう。

## 注

- 1) 本稿では、朝鮮に関わる日本語での呼称については、植田晃次(2002)による。しかしながら、朝鮮語を日本語に翻訳する場合の漢字語による呼称は、便宜上、単に漢字音を読み替える方式をとる。
- 2) Hanmun [漢文]という単語は、しばしば、漢字という意味でも用いられる。なお、本論文では、朝鮮語は朝鮮文字を用いず、イェル式翻字を簡略化して表記する。また、朝鮮語では正式には正字の漢字が用いられるが、とくに区別が必要な場合を除き、便宜上日本語で常用される字体で示す。
- 3) 基本的には宋枝学(1960:1962増補版:248-261)に依っているものと思われる。ただし、「[.....]」初級中学漢文は五六年一時間、五七年ゼロへとへってゆき、「[.....]」とされているが、1955年の教

育課程表ですでに1956年のものと同じ時間数となっている。の表1参照。

- 4) イ=コンビョ(1989)は、当時の状況から考えると、詳細・客観的な記述を試みたものであり、ここでは教育漢字を分析した他、「[.....]」北韓の漢字教育はハングル専用に対する彼らの政策修正を意味し、ハングル専用の後遺症を治療するための補完策とあいまって、対南戦略の一環である。/ 北韓の漢字教育は60年代後半から80年代までだんだん強化され、整備されている。「[.....]」と結論づけている。また、チェ=ヨンギ(2003)でも、基本的に、漢字教育を概観し、「[.....]」見かけは南北韓統一の必要性のために対南戦略のひとつとして漢字教育を実施しているということだ。しかし、内では、漢字教育を徹底して実施することによって、将来南北韓が統一すれば、北韓住民があらゆる面で優位を占めようということである。「[.....]」としている。
- 5) 第1期(1945~1954)・第2期(1954~1966)・第3期(1966~1987)・第4期(1987~)と区分し、「[.....]」表意文字である漢字教育が綴字法の性格と一致するかのように行われてきたという現象は非常に興味深い。」(ハトリ=レイコ 1991:287)としている。
- 6) 現在は中学校と改称。
- 7) この識字運動では、「解放後、勤労者たちの中には、漢文がわかる人たちがいくらもあらず、広く行われた文盲〔ママ〕退治事業も漢字は教えずに、朝鮮文字だけを教える方法で行った。」(キム=イノ 1999:35)というように、朝鮮文字のみの識字が目的であった。
- 8) パク=スヨン(1985:85)によれば、1946年11月、文盲〔ママ〕退治に関する決定を採択したという。また、キム=チャンホ(1990:236-237)によれば、1945年末に教育局に成人教育部を設置、1946年5月25日に北朝鮮臨時人民委員会教育局指示

## 朝鮮民主主義人民共和国における漢字教育

- 第65号「成人教育指導要綱」を発表、1946年11月25日に同委員会決定「冬期農村文盲〔ママ〕退治運動に関して」(第113号)があったという。
- 9)「わが国での書写生活の単一化問題は、このように漸次的な過程を経て文盲〔ママ〕退治事業が終りつつあった1949年3月には、漢字を廃止し、あらゆる出版物と国家公文書で漢字使用を完全に禁止する決定的な措置を取った。」(チョヨ=ヘチヨン 1987: 121) また、『労働新聞』の場合には、部分的に漢字を混ぜて書いてきていた4面までも、チュチェ38(1949)年1月1日号からすべて朝鮮文字でだけ出した。」という(キム=イノ 1999: 36)。
- 10)「言語学者たちは常用漢字の数を決めて、教育と出版物に実際使う漢字の数を減らし、出版部門では大衆的な新聞・雑誌・普通教育部門の本からまず漢字を使わないようにし、カッコの中や文字の上・横に一部漢字を一定の期間書き入れるようにする方法、題目の文は朝鮮文字だけを使い、本文だけは漢字を混ぜて書く方法〔……〕」(キム=イノ 1999: 36)。
- 11)「純国文からなる出版物を通して、人民大衆にお手本を示すことは、漢字がなくとも朝鮮文字で書写生活を行えるという認識を持たせ、朝鮮文字からのみなる文字生活の経験を得させる効果的な方途であった。解放直後だけでも、漢字に対する古い認識が完全に拭い去られていない条件で、いっぺんに漢字をなくすよりは、実物を通して純国文生活の優位性を示しながら、漸次的方法で漢字をなくすことは、実効性のある方法である。」(社会科学院チュチェ思想研究所 1975: 196)
- 12) ハトリ=レイコ(1991: 268)では、ホ=ドンチャン(1990)が挙げられているが、同書4巻の文献一覧では漏れており、確定できなかった。ホ=ドンチャン(1987)については、イ=ユンピョ(1989: 370)により推定した。ここではハトリ=レイコはイ=ユンピョを1968年説に立つものとしているが、イ=ユンピョ(1989: 370)では、ホ=ドンチャン(1987)に基づき、漢字教育の再開を1959年と見られるとしている。
- 13)「偉大な領袖金日成同志は、困難なこの問題(本論文の筆者註: 漢字を大胆な勇断で使わなくする問題)を順調にはやい期間内に解決するために、〔……〕漢字を廃止するのに次いで、漢文教育を外国語教育の形式で一定の範囲内で実施することについての問題など、それに必要な様々な措置もお取りくださった。」(キム=イノ 1999: 36)
- 14)「書写体系としての漢字を使用する問題と外国の文字としての漢字を利用する問題は、本質的に異なる。前者は公式的な文字生活から日常的な文字生活に至るまで、体系的に漢字を使用するという問題だというなら、後者は書写体系の外で特殊に漢字を利用する問題である。であるからして、漢字を外国の文字として利用するからといって、漢字使用廃止の成果が損われるのでもない。」(社会科学院チュチェ思想研究所 1975: 197)
- 15) この教示では、古い文献の翻訳のためには、金日成綜合大学に古典文学科を設け、専門家を育成するのがいいとしている。
- 16) 黄海製鉄所の略称。
- 17) 第29課は、「以民為天」・「独立家屋」・「難攻不落」・「万年長寿」・「進退兩難」の5つの四字熟語が本文となっているのみである。
- 18) およそカナタ順になっているが、一部前後している。
- 19)「新しい漢字」は第1課からは4~5字ずつで、第13課で初めて6字になる。その点から推測して、これら6字に第3課のものではないものが、何らかの事情で紛れ込んでいる可能性も否定できない。
- 20) 復習の課、および、第9・16・18・29課を除く。
- 21) 練習の提示に当たっては、課と問題番号を( )内に示した後、問題文、問題と示した。問題文と問題の間には「:」を挿入した。

- 22) 設問の文言にはいささか一貫性を欠くものがあり、たとえば、同様に漢字語の読みを問う設問が、第18課(2)3では、「次の漢字を読みなさい。」となっている。
- 23) □内は、印刷不鮮明のため推測。
- 24) は、印刷不鮮明のため判読不能。
- 25) ここには「点」が入るので、ulとするべきだが、lulとなっているのは誤植と見られる。
- 26) (第16課4) 次の正字と略字を対比し、覚えておきなさい。 : [.....] 變 變 鬪 斗 雙 雙 惡 惡 當 當 蟲 虫
- 27) 他にも、キム = コンセ (1983) 『漢文古典講読』金日成綜合大学出版社、未詳 (1995) 『朝鮮語文課外学習教材 朝鮮語文学部用』金日成綜合大学などがあるが、大学の専門教育用であるので、ここでは例示するにとどめる。
- 28) 他にも、キム = コンセ (1991) 『漢文文章論研究』金日成綜合大学出版社、オ = ヒボク (1994) 『漢字学習の基礎』金日成綜合大学出版社、キム = セチュン (1991) 『漢字形体変化および造成手法研究』金日成綜合大学出版社など、大学の専門教育用と見られるものも挙げられている。
- 29) 後に挙げる例に見られるように、必ずしも固有語が多いというわけではない。
- 30) 日常使われないものとして、昔はあったが現在はなくなった対象 (pangphay [ 防牌 ] 盾・kapos [ 甲 ] 鎧・pyesul くらいなど) 現在も存在するが、昔に使っていたことばは現代では異なる表現に変わったもの (kongkyenghata [ 恭敬 ] 恭敬する・koul こおり・sikol いなかなど) 大人は使うが学生の言語生活ではよくは使われない語彙 (kyelul いとま・kyencwuta 競う・yenko [ 縁故 ] など) のように分類している。
- 31) リ = グモク (2003) や少し時代が遡るが、キル = キョンジョン (1986) でも意味の正確な把握のための漢字教育について触れられている。

- 32) 中等教育での漢字教育ではないが、師範大学での漢文教育の事例として、「師範大学で扱う漢文講読科目は教材内容が国漢文とは異なり、純粹の漢文でだけ成っている昔の歴史記録と漢詩、物語、古典小説などの古典文献から構成されているために、学生たちが理解しにくがり、興味を持ってない場合が多い。」(パク = スニ 2003 : 96) というように、漢字・漢文への親しみの無さが指摘されている。
- 33) 特派記者 (2003)。この掛図は、左半分に100近くの漢字が、右半分に首領・主席・領袖・指導者・最高司令官などの漢字が大きく書かれた横に朝鮮文字でそれらがいささか小さ目に書かれているものである。

## 引用文献

- ( \* を付したものは朝鮮語文献であり、イェール式翻字の順に従う。)
- チョン = ヘジョン . 1987 . 『文盲 [ ママ ] 退治経験』社会科学出版社 \*
- 朝鮮出版物輸出入社 . 2001 . 『朝鮮出版物目録 3 (1990-2001)』朝鮮出版物輸出入社 \*
- チェ = チョンフ・パク = チェス . 1999 . 『チュチュエの言語理論研究』社会科学出版社 \*
- チェ = ヨンギ . 2003 . 『南北韓国語政策変遷史研究』博而精 \*
- ハトリ = レイコ . 1991 . 「北韓の漢字教育史」キム = ミンス (編) . 『北韓の朝鮮語研究史 1945 ~ 1990 2 実用分野』緑進 : 266-290 \*
- ホ = ドンチャン . 1987 . 「日本から見た北韓の漢字教育」『北韓』1987年7月号 : 102-109 \*
- イ = ユンピョ . 1989 . 「北韓の漢字教育について」北韓言語研究会 (編著) ・キム = ミンス (監修) . 『北韓の語学革命』白衣 : 365-377 \*
- キル = キョンジョン . 1986 . 「漢文教育を通して単語の意味を正確に教えようとするなら」『文化語学習』

朝鮮民主主義人民共和国における漢字教育

- 1986-1 : 41-42 \*
- キム = チャンホ . 1990 . 『朝鮮教育史3』社会科学出版社 \*
- キム = イルソン . 1982a . 「朝鮮語を発展させるためのいくつかの問題」『金日成著作集(18)』朝鮮労働党出版社 : 14-27 \*
- キム = イルソン . 1982b . 「朝鮮語の民族的特性を正しく生かしていくことについて」『金日成著作集(20)』朝鮮労働党出版社 : 335-352 \*
- キム = イルソン . 1996 . 『世紀とともに(継承本)7』朝鮮労働党出版社 \*
- キム = イノ . 1999 . 「わが人民の文字生活で画期的な転換をもたらした歴史的出来事」『朝鮮語文』1999-2 : 35-36 \*
- キム = グムサン . 1994 . 「漢字の書き方教授をうまくやろうと思えば」『文化語学習』1994-3 : 46-47 \*
- キム = ソンシル . 2001 . 「漢文の授業を通してより多くの語彙を教える」『文化語学習』2001-2 : 34 \*
- リ = グモク . 2003 . 「漢字の『訓』についての補充的な説明を加えようと思えば」『教員宣伝手帖』2003-2 : 133-134 \*
- リ = ドクソン . 1991 . 「漢文教授過程を通した朝鮮語教育」『文化語学習』1991-4 : 34-35 \*
- リム = ニヨンギル・リム = ニヨンファ . 1995 . 『『方向線』と『準位法』に基づいた漢字および漢字単語(語彙)の新たな配列方法について』『文化語学習』1995-4 : 51-54 \*
- 未詳 . 1956 . 「キタ~チョウセン デワ カンジヨ ヤメタ」『カナノヒカリ』404 : 3 - 7, 3 - 9.
- パク = チョンファ . 1995 . 「漢文教授を通して朝鮮語の知識を！」『文化語学習』1995-4 : 37 \*
- パク = スニ . 2003 . 「漢文講読科目の教授密度を高めようとするば」『教員宣伝手帖』2003-2 : 96-97 \*
- パク = スヨン . 1985 . 『民族語を発展させた経験』社会科学出版社 \*
- 朴鎔暉 . 1981 . 「朝鮮における漢字の使用廃止」『言語生活』356 : 70-76.
- 朴鎔暉 . 1982 . 「固有語をハングルで 南北朝鮮の国語・国字政策が目指すもの」『言語生活』363 : 56-63.
- 社会科学院チュチュエ思想研究所 . 1975 . 『チュチュエ思想に基づいた言語理論』社会科学出版社 \*
- 宋枝学 . 1956a . 「朝鮮の文字と国語教育」『ことばの教育』75 : 54-60.
- 宋枝学 . 1956b . 「北朝鮮の国字政策について」『言語生活』57 : 72-73.
- 宋枝学 . 1960 . 「朝鮮文字の改革運動」『ことばの教育』125 : 266-268.
- 宋枝学(訳編) . 1960 : 1962増補版 . 『朝鮮教育史』くろしお出版.
- 竹端瞭一 . 1969 . 「朝鮮の漢字廃止」『言語政策』12 : 2-3.
- タケバ リヨウイチ . 1970a . 「ハングル ダケニ ナル チョウセンゴ」『カナノヒカリ』570 : 1 - 10-1 - 11.
- 竹端瞭一 . 1970b . 「朝鮮の言語政策 ハングル専用・漢字廃止をめぐる」『武蔵野女子大学紀要』5 : 36-58.
- タケバ リヨウイチ . 1971 . 「南北朝鮮の方向 韓国の漢字廃止1周年」『カナノヒカリ』581 : 1 - 10-1 - 13.
- 竹端瞭一 . 1972 . 「朝鮮語の問題 おもにハングルと漢字について」『韓』10 : 99-119.
- 竹端瞭一 . 1973 . 「朝鮮語の問題(二) おもにハングルと漢字について」『韓』14 : 13-52.
- 特派記者 . 2003 . 「一生を教壇とともに 江界市栄誉の赤旗ソッキョン中学校教員チェ = ワルスンさん」『教員新聞』2003年8月4日 : 4 \*
- 植田晃次 . 2002 . 「言語呼称の社会性 日本語で朝鮮語、韓国語、ハングル...と呼ばれる言語の呼称再考」『社会言語学』II : 1-20.